

研究分野のキーワード: 西洋史 宗教 キリスト教 ユダヤ人 再臨運動 内村鑑三

研究紹介

私の研究テーマは、第一に、古代から近代にいたる西洋史とキリスト教との関係である。キリスト教はいかにして西洋史に影響を与えたのかを、古代ローマ帝国から中世、さらに18世紀の近代市民革命まで考察した。中世では民衆の有する大宇宙と小宇宙という二つの世界観を説明した。宗教改革ではカルヴァンの生涯と改革との関わり合いを詳述した。さらに近代諸革命における宗教の役割を分析した。『西洋史とキリスト教』(教文館)はこの研究の集大成である。

第二の研究テーマは、西洋史におけるユダヤ人の歴史と思想である。ユダヤ人の歴史もまた西洋史において重要な背景をなしている。古代から近代にいたる西洋におけるユダヤ人の歴史を、これまで歴史社会的に分析した。ユダヤ教神学や思想史も考察し、さらにキリスト教のメシア観とユダヤ教のメシア観の比較、イタリアとスペインのカバラ思想の比較、ユダヤ教における呪術等も扱った。『ユダヤ人迫害史』(教文館)、『ロシア社会とユダヤ人』(ヨルダン社)、『ロシア正教のイコン』(創元社)はこの研究の集大成である。

第三に、文明論の研究にも従事している。ユダヤ文明を一神教文明の一つだと定義して中世の反ユダヤ主義を宗教的反ユダヤ主義、近代の反ユダヤ主義を人種的反ユダヤ主義だと区別する。また近代ヨーロッパ社会に対するユダヤ人の応答を、「国家内国家型」「同化型」「革命型」「シオニズム型」の理念型を設定して考察した。さらにパレスチナ問題に代表される民族紛争における宗教の位置づけは特定民族の「外見的表示」に過ぎないと論じる。『一神教文明からの問いかけ』(講談社)はこの研究を扱う。

今後の研究課題として、第一に、西洋史とキリスト教との関係をフランス革命まで考察したが、それ以後の西洋史における両者の関係についても継続して分析していきたい。

第二に、文明論の研究、特に一神教文明の共生についての研究を継続して進展させたい。個々の歴史的イベントや各国ごとの歴史の枠を越えた文明単位の研究にすでに着手しており、文明間における共生の可能性を求めたい。

第三に、日本キリスト教史における宗教運動、特に大正期再臨運動についての数年にわたる研究が集大成されて、本年、『内村鑑三と再臨運動』(新教出版社)を出版した。以後、日本の宗教運動を欧米のそれと比較分析して、欧米文明と日本文明についても比較考察する計画である。